

2023 年度 学校関係者評価委員会 総括

I. 学校関係者評価委員

委員長： 中谷 守一（社会医療法人景岳会 南大阪病院院長代理）

委員： 渡邊 美津江（社会医療法人景岳会 南大阪病院看護部長）

原田 聡（社会医療法人景岳会 本部部長）

坂口 洋子（社会福祉法人白寿会 在宅部看護サービス事業課 課長）

西森 恭子（社会医療法人景岳会 南大阪病院 看護師長 及び
南大阪看護専門学校 卒業生）

井上 義雄（大阪市西成区地域振興会 南津守連合第十一町会 町会長）

学校側： 小味 智雄（学校長）

藪本 初音（副学校長）

高岡 操（教務主任）

鶴羽 真侑（事務員）

II. 2023 年度学校関係者評価委員会 実施日

【第 15 回】

日時： 2023 年 10 月 11 日（水） 15：00～16：00

場所：南大阪看護専門学校 会議室

方法：対面

欠席者：委員 井上 義雄（大阪市西成区地域振興会 南津守連合第十一町会 町会長）

【第 16 回】

日時： 2024 年 4 月 24 日（水） 15：00～16：00

場所：南大阪看護専門学校 会議室

方法：対面

欠席者：委員 坂口 洋子（社会福祉法人白寿会 在宅部看護サービス事業課 課長）

委員 井上 義雄（大阪市西成区地域振興会 南津守連合第十一町会 町会長）

III. 2023 年度 年間目標

1. 看護師国家試験の合格률을 100%にする
2. 授業評価を有効に活用し、授業内容や実習指導にフィードバックすることで教育効果を高める
3. 質の高い受験生の確保

IV. 年間目標の取り組み状況と課題

1. 看護師国家試験の合格률을 100%にする

現状	・ 第 113 回看護師国家試験（2023 年度）は受験生 37 名中 36 名の合格、合格率は 97.3%となった。全国平均合格率（新卒 93.2%、全体 87.8%）が例年より低い中、残念ながら 1 名の不合格となったが合格率は全国平均を上回っている。 ・ 111 回（92.5%）から 112 回（97.1%）・113 回（97.3%）と 2 年連続で合格率
----	---

	<p>は右肩上がりの傾向にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1,2年生に対しては、自身の実力を知り学習の習慣化を図る為に、以下の内容の国家試験対策を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> [1年次] 解剖生理学、病態生理学試験+小テスト 12回 等 [2年次] 低学年模擬試験 2回+過去問題テスト 12回 等 ・3年生に対しては、実習と国家試験勉強を両立させ、合格ラインの実力を獲得する為に、以下の内容の国家試験対策を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> [3年次] 全国模試 4回+過去問題テスト 12回 等 <p>点数の伸びない学生への学習指導と心理的サポート 補習講義 (12月～1月)、個別面接指導</p>
取り組み	<p>合格率 100%に向け、今後とも対策を充実させ、学習効果を高めていく必要がある。なお、合格率が上昇していることから対策方法や方針は間違っていないと考える。</p> <p>①3年次の GPA が 3.0 以下の学生に国家試験不合格が多い傾向にある為、個別に個別性に応じたきめ細かなサポートを行う。</p> <p>②GPA が 3.0 以上であっても 3 点台前半の学生から不合格者が散見される為、過去に不合格となった学生の特徴 (実習や学校生活・家庭環境・意欲など) に該当する学生には、GPA3.0 以下の学生と同様のサポートを行う。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次回 114 回は新カリキュラムでの最初の国家試験であり、出題内容や難易度の予想が難しく、113 回のような全国平均合格率となることが考えられる。 ・履修科目の GPA や学校生活の様子等と合わせて、気になる学生に対する早期介入を行う。 ・成績の変動が大きい学生や国家試験模試の成績が伸び悩んでいる学生へのフォローの充実 (対象となる学生の合格率が低い傾向にある為)

2. 授業評価を有効に活用し、授業内容や実習指導にフィードバックすることで教育効果を高める

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度実施の自己点検・自己評価において当該項目の評価平均点が「2.2」と低く、早急に取り組み改善していくことが必要である。
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価及び実習の技術評価等により、担当する授業や実習を振り返り、改善点等をまとめ、次の学生指導に活かす。その為に、書類を作成し教員の振り返りを書面で残すことで検討を可視化し確実に評価する。 ・同じ分野の講義、実習を担当する教員とともにディスカッションし、教員個人のスキル向上を図るとともに、領域の学習効果を高める。 ・従来担当教員のみで実施していた学内演習を複数の教員が協働で行うことにより、安全・安楽で質の高い看護技術の修得を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・上記取り組みを行ったことで、自己点検・自己評価における当該項目の評価平均点は「2.2.」から「3.4」へと改善した。引き続き、取り組んでいく。

3. 質の高い受験生の確保

現状	オープンキャンパス
----	-----------

	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度オープンキャンパスは、3日間実施。目標として学校の魅力を知ってもらうことや1日あたりの参加者数を100人（参加上限100人）とすることを掲げ実施。 <p><u>オンライン座談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の参加者数の少なさやコロナ収束の観点からオンライン座談会は実施しないこととする。 <p><u>学校見学会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にオープンキャンパスに参加できなかった方への学校見学の機会を設ける為に企画する。以前は個別で学校見学を受け付けていたが、案内スタッフの負担を考慮し、予め日程を設けて実施する。 <p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校を中心に前年度入試にて実績のある高校へ訪問。 ・業者より案内がある進学説明会へは日程等による不都合が無い限りはできるだけ参加。 <p><u>広報/SNS</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生を中心とした対象へ、本校の認知やイメージアップを目的にSNSへの学校情報の投稿を行う。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試、社会人入試では学科試験1科目（国語）と面接試験を、一般入試では学科試験2科目（国語・数学）と面接試験を実施している。
<p>取り組み</p>	<p><u>オープンキャンパス/オンライン座談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日の削減（4日間→3日間）と参加者数上限の増加（90人→100人）を行った。 ・前年度より内容を大きく変更し、主に全体説明会（在校生による学校生活紹介、卒業生による仕事紹介、副学校長による学校概要説明）の実施や南大阪病院外観見学ツアーの実施、インスタ映えスポットの設置を行った。 ・総参加者数は実施日が削減したの為減少したが、1日あたりの参加者数は増加した。 ・事項の学校見学会と併せて、参加者のうち入学者が36名と、入学者40名のうちほとんどが事前に本校イベントに参加している。受験・入学に直結するイベントの重要性を再確認できた。 <p><u>学校見学会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5日間実施。参加者数のうちのほとんどがオープンキャンパス実施後（9月～11月）の来訪であり、オープンキャンパスに参加できなかったが受験前に学校見学をしたいという方が多く参加した。 <p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校上層部や法人人材確保室と連携し、複数人で精度の高い学校訪問を行った。 ・入学後のミスマッチを防ぐ為、本校が求める人物像や推薦条件について認識のすり合わせを行った。 <p><u>広報/SNS</u></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの告知としてショート動画を作成した。 ・一部動画が 20 万回以上再生と拡散と認知度の向上につながった。 ・年度目標であった Instagram のフォロワー数 400 人を早々に達成した。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試、社会人入試では学科試験 1 科目（国語）と面接試験を、一般入試では学科試験 2 科目（国語・数学）と面接試験を実施した。 ・受験者数は減少したが、追加試験を実施する必要もなく定員は充足した。
課題	<p><u>オープンキャンパス</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加が受験・入学に繋がりがやすいことが前年度により顕著となったので、参加人数の増加を目標に取り組む。 ・前年度以上の内容を企画する。 ・入学後のミスマッチを防ぐ為に、本校が求める人物像や看護学校の大変さを参加者全体に向けしっかりと説明する。 <p><u>学校見学会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス後の日程を増やして参加人数の増加を目指す。 ・オープンキャンパス後にも学校見学ができる機会があることを周知していく必要がある。 <p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、複数人で精度の高い学校訪問を行う。 ・引き続き、入学後のミスマッチを防ぐ為、本校が求める人物像や推薦条件について認識のすり合わせを行う。 <p><u>広報/SNS</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高校生目線の SNS を展開する為に、学生に企画や撮影に積極的に協力を呼び掛ける。 ・SNS の更新頻度を上げ、他校に無い企画の投稿をし、差別化を図る。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接試験の内容や判定基準等の変更を検討する。

「2023年度学校評価自己評価」の評価結果と今後の課題

評価実施年：2024年3月実施

評価項目 [群平均点()内の点数は2022年度]		課題・改善方策
1. 教育理念・目標 [35 (29)]		
2022年度 課題・改善方策	2023年度取組	
(1)アドミッションポリシーを策定することにより、本校が求める人材像を明確にし、募集要項やホームページ、オープンキャンパス等で周知していきたい。	(1) アドミッションポリシー策定には至らなかった。新しく入職した教員が多かったため、教育目的・教育目標の説明場面を改めて周知したことで、学生・保護者へ説明がなされていることが理解され、評価点が上がったと考える。	
2. 学校運営 [33 (26)]		
(1)稟議の電子化をという意見があったが、法人全体のシステムにも関連することから今後の課題とする。 (2)学校運営に関する各会議は有効に機能している。今後とも限られた時間内で、活発な意見交換ができきよう進行管理していく。	(2)「学校管理者会議」、「教務会議」において、各学年の動向や教育(実習含む)の現状を共有し、課題の検討・改善に努めた。外部委員を含む「学校運営会議」「学校関係者評価委員会」においても教育の質の向上、学校運営等について協議し可能なところから改善に取り組んでいる。	(1)新入職の教職員に学校運営の各種会議の目的について説明するとともに、その結果についても伝え方針を共有する。
3. 教育活動 [32 (26)]		
(1)ディプロマポリシーから学年毎に定めた目標の到達度について、学生個人の評価・指導は行っているが、学年全体の結果を評価するまでには至っていない。個と集団双方から評価することで、教育(実習含む)内容を振り返り、必要な場合は見直し改善を図る。 (2)小項目⑤⑧などいくつかの評価項目について、「高校や関係機関など外部の意見を反映させているか」など、看護専門学校の評価指標としてわかりやすい内容を検討する。 (3)授業や実習の評価表については、改善点等をまとめ次の講義・実習指導に活かす。また、関連する分野の講義、実習を担当する教員間でディスカッションし、教員個人のスキル向上を図るとともに、領域の学習効果を高める。まずは、内部の教員で実施していきたい。 (4)教員は進歩する看護技術や看護教育を修得していく必要があるため、研修や学会へ積極的に参加し自己研鑽に努めるととも	(1)学年全体の技術到達度を評価した結果、基礎看護技術の向上を図る必要があると考え、担当教員が一人で実施していた各種学内演習に、複数の教員が入り指導の充実を図った。 (2)小項目⑤・⑧については、現状に即したわかりやすい評価指標に改訂した。 (3)講義や実習に対する学生評価を参考に、教員各自が自身の教育内容・方法を評価し、次の講義や実習指導に活かすとともに、担当が変わった時にも活用できるように振り返りシートを作成した。 (4)教員に対し、積極的に研修会に参加するよう呼びかけた結果、3名の教員が研修会に参加した。(昨年度は2名)	(1)複数の教員による演習の効果を評価し、更なる効果的な演習方法を検討する。 (2)教員の振り返りシートにより、授業や実習指導の質を高めていく。 (3)教員の自己研鑽の機会としての研修参加を促していく。

に、その結果を教員間で共有し資質の向上に努めていく。		
4. 学修成果：この項目の平均点が最も低い [30 (23)]		
<p>(1)国家試験合格率の向上については、現在の取組みが効果をあげていると考えられるため継続していく。</p> <p>(2)「④卒業生・在校生の社会的な活動の把握と評価(20)」⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活かしているか(21)」の2つが、すべての小項目の中で最も評価が低いことから、何らかの取り組みを検討し教育活動の改善・拡充につなげていく。</p>	<p>(1)3年生への国家試験対策は、学生に応じ個別指導、グループ指導を実施した。また、主要な教科については補講を実施するなど、前年度と同様の取組みを行った。</p> <p>(1)1年生が苦手とする解剖生理学などの科目については、講義開始前の時間にミニテストを実施し、知識の習得に努めた。その他、例年同様の全国模試受験により、各自が自身の実力を確認し苦手科目の学習に取組めるよう指導した。</p> <p>(2)小項目④・⑤については類似する設問であったため、一つにまとめた。また、双方ともに取組むことができなかったため、2024年度の課題とする。</p>	<p>(1)新卒者国家試験合格率は97.3%(1名不合格)と全国平均より高かったものの、100%には至らなかった。しかし、一定の合格率は維持していることから、現行の取組を継続する。</p> <p>(2)1年生で再試験の多い解剖生理学、薬理学、生物学について、引き続き小テストを行うなど学習効果を高めるための方法を検討する。</p> <p>(3)1つにまとめた評価項目④⑤について、現行の教育に活かせるよう内容を検討し実施する。</p>
5. 学生支援 [35 (27)]		
<p>(1)退学者や休学者を減らすため、今後とも気になる学生への早期介入、個々の問題に応じたきめ細かな相談を実施していく。また、退学者の中には「自分の意志ではなく、他の人から強く勧められてやむなく入学を決めた」という学生が少なくないため、特に推薦入学者に対しては高校の進路担当教員への説明を強化する。</p> <p>(2)戴帽式に保護者が出席する機会を活用し、必要な学生及び希望者への「保護者個別相談」の実施を検討する。</p> <p>(3)採用試験が年々早くなる傾向がみられるため、就職ガイダンスの時期を早める等、就職活動に対応するポート体制を整える。</p>	<p>(1)GPAの低い学生や言動が気になる学生に対しては教員間で担当を決め、定期的に面接を実施し相談に応じた。</p> <p>(1)看護師になるには本人の意思が重要であることを、オープンキャンパスにおいて保護者・受験者へ強調した。</p> <p>(1)再試験数の多い年生とその保護者との面談を実施し、今後の学校生活と学習姿勢等について話し合う機会を設けた。</p> <p>(1)戴帽式終了後の保護者会では、実習が本格的になる今後のサポートについて協力を求めた。</p> <p>(3)年々早くなる採用試験に対応するため、外部機関による2年生への就職説明会の実施時期を早め、回数を増やした。</p>	<p>(1)再試験の多い学生とその保護者との面談は引き続き実施し、学生の個別性に応じたサポートを行っていく。</p> <p>(2)就職のための説明会に関しては受講生の意見を踏まえ、内容・時期を検討する。</p>
6. 教育環境 [31 (27)]		
<p>(1)「臨床指導者会議」は活発な意見交換ができるよう、運営について病院看護部と調整を図っていく。</p> <p>(2)学生のディプロマポリシーを把握し、実習施設や実習内容についても評価し、必要であれば新たな実習施設を開拓し内容を検討するなど環境を整えていく。</p> <p>(3)防災・防犯訓練については継続し、減災に努める。</p>	<p>(1)「臨床指導者会議」では忌憚のない意見交換ができるようグループでの話し合いの時間を設け、事前打ち合わせを行うなど効率的運営に努めた。</p> <p>(2)実習施設から実習内容に関する意見等を把握し、教育に活かす体制を整えた。</p> <p>(3)防災については引き続き講義の中で施設見学を組み込むなどして、意識の向上に努めた。</p>	<p>(1)実習施設からの意見を参考に、講義・演習を充実させる。</p>
7. 学生の受入れ等 [37 (33)]		
<p>(1)入学生の確保に向け、引き続き学校訪問を中心とした働きかけを行っていく。</p> <p>(2)オープンキャンパスは実績をもとに見直しを図り、本校の特色が伝わる内容を検討していく</p>	<p>(2)オープンキャンパスや学校見学会については、参加者の意見を参考に、教職員や本委員、学校運営委員会で協議し見直しを図った。オープンキャンパスでは出席者全員に、教育理念や目標等を説明し、現職看護師による業務の講話をプログラムに組み入れた</p>	<p>(1)看護師の適性を有する学生確保に向け、面接内容の見直しを検討する。</p> <p>(2)オープンキャンパスについては一定の成果が見られるので、引き続き同じ内容</p>

<p>③受験者数について数年間は、見直した試験実施時期・試験科目の影響を評価する。</p>	<p>結果、前年度より1回当たりの参加者数が増え、学校見学会も時期を見直すことによって、大幅に来所者数が増えた。 ③昨年度は計4回入学試験を実施したが、2023年度は3回で定員を確保することができた。</p>	<p>で実施し評価する。</p>
<p>8. 財務 [31 (29)]</p>		
<p>(1)無駄な支出をおさえ、教育効果の高い分野に経費を執行する。 (2)次年度から学費を値上げすることとなったが、それに見合った教育環境を整えていく。約2か月に1度法人が作成する収支表と毎月法人経理課が作成する総勘定元帳を確認しつつ、法人、学校の規定に基づき適切な予算執行に努めている。また大阪府からの養成所補助金についても、適正な予算執行を行っている。</p>	<p>(2)学費値上げにともない、ITを活用した教育効果を高める教材の試験運用を行ったが学生に定着しなかったため、引きつづき教材等を検討する。</p>	<p>(1)学習効果を高めるための教材について検討する。</p>
<p>9. 法令順守 [34 (27)]</p>		
<p>(1)学校運営は法令を遵守し適切に運営している。 (2)教職員の個人情報保護や情報リテラシーに関する研修は、法人の研修において確実に受講していくこととする。</p>	<p>(2)個人情報漏洩防止に関して、ヒアリングの段階で学生に振り返りのレポートを書かせ、再発防止に努めた。 (3)1年生の基礎実習前に、外部講師により実習における個人情報保護について（SNSやツイッターによるもの含む）注意すべき行動とリスク回避についての講義を実施した。</p>	<p>(1)実習において、書類の保管等が適切に行われない、患者カルテが保存されているパソコンDの取扱いについてヒアリング事例が散見された。個別事例を学生全体で共有し、再発防止に努める。</p>
<p>10. 社会貢献 [31 (25)]</p>		
<p>(1)ボランティア活動に興味を持つ学生は減少傾向にあるが、地域活動の趣旨を伝え引き続き参加を呼びかけていく。</p>	<p>(1)地域の運動会や関連病院が主催する糖尿病キャンプなどに複数の学生が参加し学びを深めた。 (2)授業の一環として、地域の住民が主催する介護予防等の活動等を経験させることで、ボランティアについて理解を深める機会とした。</p>	<p>(1)学年によりボランティア活動への興味や参加状況は異なる。ボランティア活動の基本精神と学生の主体性を大切に、授業等で実際の活動や体験を組み込むなどして、学生の関心を高めていく。 (2)国際看護の導入として、身近な外国人による講話により、外国の文化に触れ多様性を考える機会とする。</p>

〔学校評価委員会における自己点検・自己評価結果に対する意見〕

1. 評価表の備考欄に各項目に関する参考資料や実施状況を記述したのは、評価者の各評価項目に関する理解を深めることにつながった。その結果、評価点の改善が見られたと思われる。今後も評価項目や取り組みについては、十分な説明したうえで実施する。
2. 国家試験については一定の結果を残しているため、合格率100%を目指し引き続き現行の取り組みを継続していく。
3. 取り組まれていない項目Ⅳ④「卒業生の意見を学生の教育に活かす」については、方法や内容を検討し今年度中に実施する必要がある。
4. 項目Ⅹ④については、法人の職員として勤務する外国人を講師に迎えるなどして、外国の文化に触れる機会を設ける。
5. 昨年度より平均点が高くなり、3点代の「ほぼ適切」な結果となった。2024年度は評価点の低いⅣ④、Ⅹ④に取り組むこと。

自己点検・自己評価表(南大阪看護専門学校) 評価点(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)

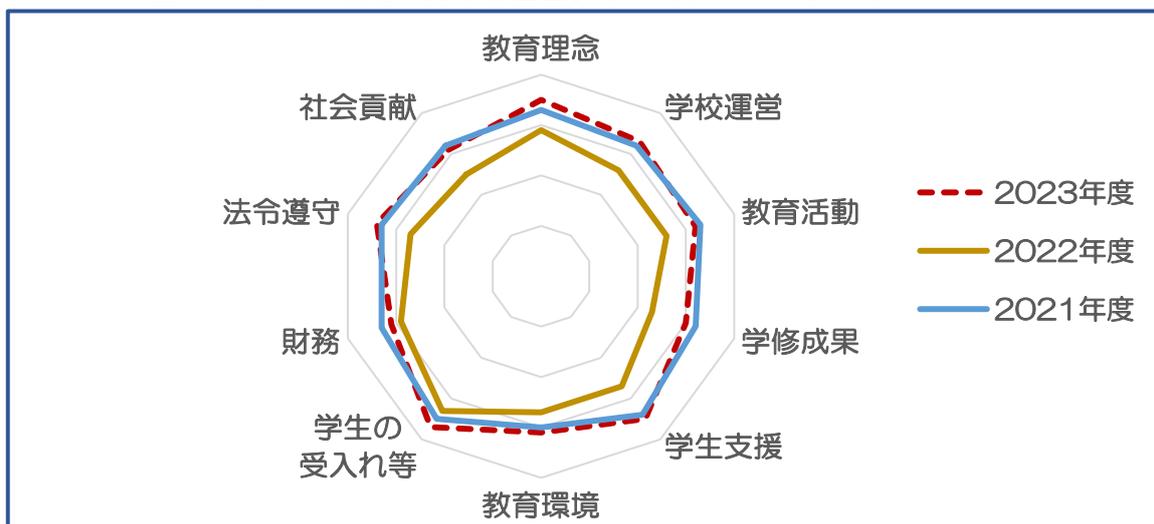
カテゴリー	下位項目	高い	低い	2023年度	2022年度	
I 教育 目標 理念	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか			3.7	3.3	
	② 学校における職業教育の特色は何か			3.6	3.1	
	③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか			3.3	2.9	
	④ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか			3.4	2.3	
	⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに適合しているか			3.3	2.8	
II 学校 運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか			3.1	2.9	
	② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか			3.2	2.8	
	③ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化され有効に機能しているか			3.2	2.5	
	④ 人事、給与に関する制度は整備されているか			3.1	2.3	
	④ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ③に含む			—	2.8	
	⑤ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか			3.2	2.5	
	⑥ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか			3.6	2.5	
III 教育 方法 ・ 評価 等	⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか			3.6	2.4	
	目 等 校 評 定 の	① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか			3.3	2.7
		② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか			3.1	3.2
	教育 方法 ・ 評価 等	③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか			3.3	3
		④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか			3.1	2.6
		④ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか → 削除し⑦に含める			—	2.1
		⑤ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか			3.1	2.3
		⑥ 授業評価の実施・評価体制はあるか	★		3.3	2.8
		⑦ 職業に関する外部関係者(実習施設等)からの評価を教育や実習に取り入れているか → ⑤の趣旨をここに含めた			3.4	2.2
		⑧ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか			3.7	3.1
	試 験 取 得 格 格	⑨ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか			3.3	2.8
教 職 員		⑩ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか			2.7	2.2
		⑩ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか → 削除			—	3
⑪ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか			3.1	2.2		
職員的能力開発のための研修等が行われているか等 → ⑩に含まれるとし削除			—	2.3		
IV 学 修 成 果	① 就職率の向上が図られているか			3.4	2.6	
	② 資格取率の向上が図られているか			3.3	2.4	
	③ 退学率の低減が図られているか			3	2.3	
	③ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか → 経済的な支援は他の学生と同じ③に含まれる			—	2	
④ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか			2.4	2.1		
V 学 生 支 援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか			3.7	2.8	
	② 学生相談に関する体制は整備されているか			3.7	2.7	
	③ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか			3.9	3.2	
	④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか			3.7	2.9	
	⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか			3.7	2.8	
	⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか			3.1	2.8	
	⑦ 保護者と適切に連携しているか			3.4	2.8	
	⑧ 卒業生への支援体制はあるか			3	2.3	
	⑧ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか → 経済的な支援は他の学生と同じ③に含まれる			—	2.5	
⑨ 高校等へキャリア教育等に関する情報提供に取り組んでいるか			3.6	2.3		
VI 環 境 育 成	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか			3	2.6	
	② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか			2.9	2.7	
	③ 防災に対する体制は整備されているか			3.3	3	
受 入 生 等 の	① 学生募集活動は、適正に行われているか			3.8	3.2	
	② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか			3.7	3.3	
	③ 学納金は妥当なものとなっているか			3.7	3.4	
VII 財 務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか			3	2.7	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか			3.2	2.8	
	③ 財務について会計監査が適正に行われているか			3.3	3	
	④ 財務情報公開の体制整備はできているか			2.8	2.9	
IX 法 令 遵 守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか			3.5	2.9	
	② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか			3.5	2.9	
	③ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			3.5	2.4	
	④ 自己評価結果を公開しているか			3.3	2.5	
	⑤ 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか			3.3	—	
	⑥ 学校関係者評価結果を公表しているか			3.5	—	
X 地 社 会 貢 献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか			3.5	2.7	
	② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか			3.7	2.7	
	③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか			2.7	2.2	
	④ 国際的視野を広げるための教育機会を設けているか			2.3	—	
平均				3.3	2.7	

自己点検・自己評価の結果と課題について

表1 自己評価平均点の経年比較

項目	(1) 教育理念	(2) 学校運営	(3) 教育活動	(4) 学修成果	(5) 学生支援	(6) 教育環境	(7) 学生の 受入れ等	(8) 財務	(9) 法令遵守	(10) 社会貢献
2023年度	3.5	3.3	3.2	3.0	3.5	3.1	3.7	3.1	3.4	3.1
2022年度	2.9	2.6	2.6	2.3	2.7	2.7	3.3	2.9	2.7	2.5
2021年度	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2

図1 3つの時期における自己評価平均点のレーダーチャート



■結果

- 2022年度に比し今年度はすべてのカテゴリーの平均点が上がった。
 - 下位項目の表現でわかりにくい文言を整理し、類似する項目はまとめた。
 - 備考欄に下位項目評価の参考となる資料を記述し、わかりにくい内容を説明後、評価を実施した。
- 最も高いカテゴリーは「Ⅶ 学生の受入れ等 3.8」、低いのは「Ⅳ 学修成果 3.0」で、3年間ほぼ同様の傾向を示している。
- 下位項目の平均点で高いのは、「Ⅴ 学生支援 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか3.9」次いで「Ⅶ 学生の受け入れ等 ①学生の募集活動は適性に行われているか 3.8」、低いのは「Ⅹ 社会貢献・地域貢献 ④国際的視野を広げるための教育機会を設けているか 2.3」、次いで「Ⅳ 学修成果 ④卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 2.4」であった。
- 昨年度の目標とそれに対する取組み

「Ⅲ 教育活動 ⑥授業評価を活用した教員の授業スキルの向上

 - 「授業評価」及び実習の技術評価等により、担当する授業や実習を振り返り改善点等をまとめ、次の学生指導に活かす。
 - 書類を作成し教員の振り返りを書面に残すことで検討を可視化し確実に評価する。担当が代わった場合に資料として活用する。
 - 同じ分野の講義、実習を担当する教員がディスカッションし、教員個人のスキル向上を図るとともに、領域の学習効果を高める。
 - 従来担当教員のみで実施していた学内演習を複数の教員が協働で行うことにより、安全・安楽で質の高い看護技術の修得を目指す。

VI.その他

- ・特になし

VII.2024年度 年間目標

1. 看護師国家試験の合格率を100%にする。
2. 授業評価を授業や演習にフィードバックする→「Ⅲ教育活動 ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発 3.1」の評価を上げる。
3. 下位項目の最も低い「Ⅳ学習効果 ④卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 2.4」への取り組み
4. 質の高い学生の確保